

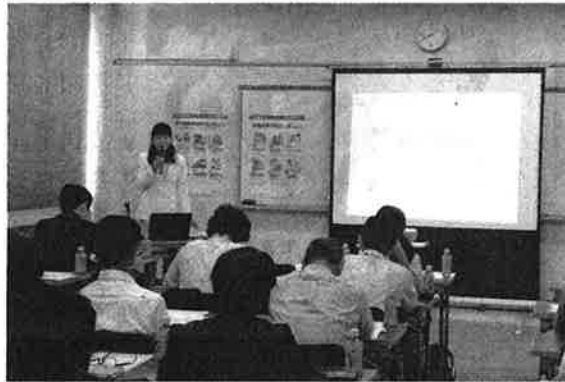
睡眠時無呼吸症候群を アプリで記録・分析

社会に寄り添う

～CSR活動百景

三井住友海上火災保険が安全運転や交通事故の防止を意識した法人向けサービスの展開を活性化させている。7月から法人専用の「睡眠時無呼吸症候群（SAS）予兆チェックサービス」を開始した。新たに開発した専用のスマートフォン（スマホ）アプリを使って、SASの症状の一つである個人のいびきの状態を記録、分析。計測結果に基づいたレポートを企業側に提供し、健康管理や運転管理の充実に無償で役立ててもらおう。営業車や運送車両を管理する法人からの引き合いが強く、申込社数は300社に到達。安全運転や労働環境の整備に関心がある企業の意識向上を後押ししている。（横山 隼也）

専門の講師を招いてSASについてセミナーを行う



法人向けサービスを活発化

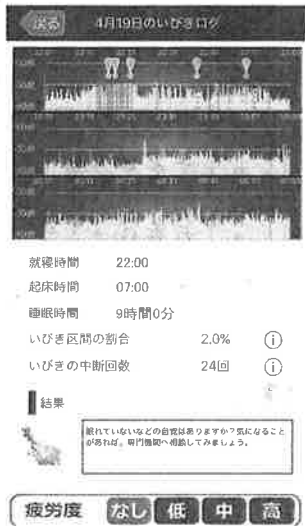
三井住友海上火災保険

成人男性の20%が発症

NPPO法人のヘルスケアネットワークによる、SASは成人男性の20%が発症していると言われて、そのうち約半数は治療が必要な「SAS患者」と呼ばれる。集中力の低下に伴う業務効率の悪化や居眠り運転を招き、予兆検出もその、国土交通省は運送事業者、三井住友海上の開発したア

健康管理や運転管理充実

アプリはこうしたSASへの予対応したサービスの一種として、呼吸やいびきの様子を計測できる。体調や時間帯によ



アプリでは計測したいびきの様子がデータで表示される



アプリの計測画面

ヘルスケアネット
このほか、7万人以上のSASスクリーニング検査の実績を持つヘルスケアネットワークと提携。診断結果に応じて、医療機器によるスクリーニング検査の斡旋や専門医を紹介するなど、有料での正式診断と治療を行える体制も構築する。

同社は専門講師を招いた無料セミナーの開催や全国各地の営業職の社員による保険代理店への紹介などを通して、サービスを訴求。交通安全への意識が高かったり、交通事故の予防に積極的な事業者への利用を促している。無料で利用できることから、保険契約がないユーザーでも使用は可能だ。

交通事故や企業意識の高まり

現時点ですでに約300社から申し込みがあり、1方2千人分の利用を見込んでいる。運送会社や営業車を多く保有する企業だけでなく、鉄道会社や建設会社など「継続的な体調の管理が必要な業種」や作業で危険を伴う業種にも認知が広がり始めている（同社担当者）。

計、分析後に企業の担当者へレポートを提供する。企業にとってはレポートに基づいて、従業員に合わせた体調管理や医療対応を取ることが可能になる。アプリでは従業員向けの健康に関するコラムやセルフ診断チェックの機能なども備えている。